



## 優秀賞

## 家族みんなでつなぐ

北秋田市立鷹巣南中学校 一年 布田 まなみ

私は幼いころから家の田仕事や畑仕事を手伝ってきました。手伝いを始めたころは、田植えの時に苗を運ぶという簡単な仕事だけが私に任せられた役割でした。

私の家は両親、祖母、姉と私の五人家族です。家の田や畑は、おとし祖父が亡くなってからは父が中心になって作っています。父も、幼いころから家の農作業を手伝い、祖父からたくさんのお話を教わってきたそうです。二人が毎日のように、朝から晩まで田畑の仕事を頑張っているのを、私も幼いころからずっと見てきました。

いつごろだったかははっきり覚えていませんが、父は私に、「農繁期に田畑を管理していくためには、大事なことが三つあるんだ。」と教えてくれました。

一つ目は「毎日朝早く起きて、夕方遅くまで仕事をする」こと。二つ目は「ビニールハウスの温度調整を二時間ごとに管理する」こと。三つ目は「苗や作物が病気になっていないか常に確認する」ことです。そして父は、この三つのことを祖父から教えてもらったと言っていました。

父からこの話を聞いたとき私は、「これじゃあ田んぼや畑から、少しも離れられないじゃないか」と思いました。そして同時に、農業の大変さを初めて感じました。それからの私は、それまで以上に家の田仕事の手伝いを頑張るようにしました。

手伝いが私一人増えたところで、祖父や父の仕事の量はそれほど変わらなかったのかもしれない。けれども、毎日懸命に頑張っていた家族が食べるお米を作っている二人に、何らかの形で感謝の気持ちを伝えたいと思ったのです。

私が父と祖父の手伝いを通して、これまでに思ったことや学んだことはいろいろあります。田畑を作り続けて行くには、たくさんの方の積み重ねが必要なこと。自分の家の田畑のことだけを考えるのではなく、周りの家の田畑のことも考えて、他に迷惑をかけないことなどです。

父が米作りを始めた最初のころは、自分が目標としていた量ほどの収穫は、なかなか達成できなかったそうです。けれど父はそこであきらめず、より一層頑張って米作りを続けました。

その結果、目標を達成したときは、本当に嬉しかったそうです。そしてこのことが、父が田畑の仕事を頑張って続けるための原動力になっているのだそうです。

今年中学生になった私は、部活動などで帰りが遅くなることもあって、以前のように農作業の手伝いをするのが難しくなりました。時々、田仕事を終えて疲れた様子で帰ってきた父を見ると、私はなんだかとても申し訳ない気持ちになりました。

けれども私は田仕事の手伝いをあきらめたわけではありません。たとえ時間がかかっても、父からもっといろいろな仕事を教わって、少しでも父の力になりたいのです。勉強や部活動が大変なことを、父も母も知っているのです。私に田仕事の手伝いを求めなくなりませんが、私にはそのことが少し寂しいのです。

私の家の田畑は、父が家族の先頭に立って、これまで長い時間つなげてきました。これからは、その中で、私も確かな力の一人になっていきたいです。